

若者の選挙に関する座談会での発言要旨

- 1 日 時 令和3年12月12日(日) 14:00~15:40
- 2 場 所 小倉駅前カンファレンスセンター第8会議室(リーガロイヤルホテル隣接)
- 3 出席者 13名(社会人4名、大学生4名、高校生5名)
- 4 座談会テーマ
(1) 主権者教育について
(2) 選挙啓発について
- 5 主な発言要旨
(1) 主権者教育について

ア. 主権者教育について学んだこと

【授業での印象】

- ・公民の科目の中の1つで特にこれといった印象はない。
- ・主権者教育という言葉は初めて聞いた。
- ・高校1年のときに、現代社会の先生が2~3時間話してくれた。選挙の仕組みや、インターネットでの選挙運動でして良いこと、悪いことなど。内容的には盛りだくさんではあった。しかし、1人1人が選挙にどう向き合うかはなかった。受験に関係ないので、その時間は休み時間のような感覚だった。
- ・現代社会の授業でしくみを学ぶだけで、選挙を実感することはなかった。受験のための勉強という意識であった。
- ・主権者教育を受けた実感がない。公民でしくみは習った。投票しなかったら、こんなデメリットがあると教えてもらっていないので、自分事とは感じづらい。
- ・高校で習った記憶はない。むしろ、TVを見て、自分でネットを調べたりした。
- ・授業としての覚えはないが、公民の先生が政治について熱心で、授業中に教えてくれ、興味を持ったことはあった。
- ・先生は、投票に行かないことで将来70歳や80歳になったときのデメリットを伝えてくれたが、そんな先のことまでイメージできない。選挙に行ったら、こんな良いことがあるよとか、自分がどういう社会で生きたいか、考えて、叶えるために選挙があるんだと言ってもらった方が考える機会が得られたのではないかと思う。

【模擬投票】

- ・高校の時に模擬投票があると、授業が1つ潰れてラッキー程度で、実際の投票に結び付いているかというところとわからない。
- ・授業の中で、クラスの中で仮の議題と架空の選挙を先生が作ってくれて、模擬投票を行った。当時は、一種のレクレーションみたいな感覚で受けた記憶がある。
- ・中学のときの生徒会選挙はすごく覚えている。本物の投票箱や記載台を使ったり、実際にポスターを校内に掲示したり、朝、校舎前で、候補者が挨拶運動するなど、本当の選挙に近い感じでしてもらった。
- ・生徒会選挙は、投票する側と立候補する側では重みが違うと思う。

【学校内での友人との会話】

- ・正直言って話しづらい。政治は、どうしても堅苦しいイメージがある。
- ・若い人のノリで、「お前堅苦しくね？」となって、政治の話し合いはしない。
- ・正直あんまり選挙の話題は出たことがなくて、「あの人が当選した、やったー」って盛り上がる感じではない。盛り上がりにくい話題ではあるかなと思う。

イ. どのような主権者教育が良いか

【外部からの講師等】

- ・外部から堅いイメージを柔らかくしてくれる人が来て教えてくれると良いと思う。
- ・わかりやすく伝えてくれる、橋渡し役の世代の人がいない。同じ目線の若い人から説明してもらえると良いのでは。特にこの人知っていると。タレント、芸人さんみたいな人。
- ・堅苦しいイメージがあって、選挙に触れる機会がない。先生だけでなく、大学生の意見を聞いたり。ユーチューバーが実際に選挙について発信する。インフルエンサーが選挙について話せば効果は大きい。

【話し合い(議論)の場】

- ・今日の座談会のように、いろいろな人から意見を聞く場があればよいと思う。先生だけでなく、大学生や社会人になったばかりの人など。これから自分になる姿のイメージがしやすくなる。
- ・著名な人を呼ぶのも良いが、自分のものとして考えていくには、体験型の学習も必要と思う。総合的な学習の時間の中で実際の具体的な政策について賛成反対を討論するなど。
- ・正直、年上の人から長い時間、話を聞くのも大半の生徒からしたら居眠りの時間になるので、親しい仲の人たちが壇上でディベートやプレゼンをしたら、関心が深まるのではないかと思う。

【体験する授業】

- ・健常者の学校は1クラス38人とか、聾学校は6人。受け身の立場。教科書や机上だけでなく、投票ができる場所に行き実際に経験することも大事と思う。
- ・実際に選挙を手伝ったり、そういった方の体験を聞いたり、若い人が選挙を身近に体験してどう思ったかというところの意見も必要ではないか。

【その他】

- ・同年代の方が選挙に出てくれば、若者の目線で言ってもらえるので、また違ってくる。
- ・選挙に関して、高校からでは遅いと思う。興味を持つ人は持つけど、持たない人も多い。難しいことはできないかもしれないが、小学校の時から身近なものにした方が良い。
- ・政治を1つの教科としてはどうか。じっくり時間をかけて勉強するのもよいと思う。
- ・各家庭で選挙について話したりすることはすごく大事ではないかと思う。妹が中1、小6の時に、学校でこんな授業をやったよ、みたいな話を家族一緒にした記憶がある。

(2) 選挙啓発について

【投票しない理由】

- ・立候補者の訴えには、例えば教育に関することはあるが、どちらかという親の方に視線が行って、自分たちに問いかけてくるものではないと感じる。
- ・行ったところで、何が変わるのかと思っている人は多い。自分が投じた1票がどうなったか。実感が持てない。
- ・当事者意識がない人が多いと感じる。一緒に社会を作っていくという意識。作り手になれるんだと気付いていない。またそういったことを議論する場もない。
- ・日本の芸能人は、自分の政治的立場を言う人は少ない。日本は、政治はタブーの空気感がある。

【制度や投票環境の改善】

- ・自分たちと違う世代の人達が討論しても響かない。たとえば、1つの選挙区で1人は、20代の人を当選させなければいけないとかあれば関心が高まる。
- ・選挙が大事とわかっているけど忙しい人もいる。選挙有休とかあれば。
- ・選挙に行かなかったら罰金、となれば行くのでは。そのためには、身近に投票できる環境を作らないといけない。学校、コンビニなど自分たちの生活圏内で投票できれば。
- ・部活があつて行けない。学校にも期日前投票があれば、行きやすい。
- ・行きやすい場所でやってもらえたら。若い人にとって行きやすい場所、みんな車を持っている訳ではない。
- ・インターネット投票ができればありがたい。
- ・インターネット等で候補者の情報を詳しく見られるようになれば良い。
- ・ヨーロッパでは、政党がブースを作って、サンドイッチを振舞ったり、チェスをしたり、お祭りのようにやっている。日本も候補者とフランクに接することができれば、選挙に参加するきっかけになるのでは。

【インセンティブの付与】

- ・浅はかかも知れないけど、興味のない人には、投票したら商品券を渡すとか。
- ・特典が1000円位あれば行くのではないかと思う。地域の経済にも寄与する。
- ・献血すると、アニメのキャラクターグッズがもらえる。選挙でもキャラクターグッズやアイドルグッズがもらえるなら行くのではないか。
- ・安くてもいいので、ちょっとした粗品があれば、動機付けになるのでは。
- ・アメリカでコロナワクチン接種するとライブコンサートに招待されるなどあったらしい。特典があるとそれをきっかけにできる。投票した人限定のコンサートとか。